



日本色彩学会

THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

関西支部

実践色彩講座

2019

考える
わかる
使える "色彩学"

≪日本色彩学会関西支部主催≫

実践色彩講座2019 <考える, わかる, 使える“色彩学”>

関西支部長 / 実行委員長 森本 一成

日本色彩学会関西支部が長年行ってきた色彩に関する教育研究普及の特徴的な活動に、色彩基礎セミナーとカラーコーディネーターシンポジウムがあります。2013年までに基礎セミナーを18回、シンポジウムを14回開催してきました。そのノウハウを基に、2015年と2016年には学会主催で色彩講座(基礎編と実践編)が開講され、会員諸氏から非常に高い評価をいただきました。

近年は異分野領域との融合研究が進み、色彩関連の研究・開発・実装は急速に展開され著しい変化がみられることより、これまでの一連の受講者や会員から実践的な知識や手法を取得できる色彩講座の開講を望む声が関西支部に多く寄せられました。そうした要望に応えるべく関西支部では講座のワーキンググループを立ち上げ、「誰のための、何のための色彩学」と「もっとワクワク色彩学」をテーマに議論を重ね、この度、実践色彩講座2019を開講する運びとなりました。色彩学のカバーする分野は非常に広いため講義対象を絞ることに大変苦労しましたが、議論に上がった16テーマの中から本講座では「化粧心理学と照明」「アクセシブルデザイン」「自然色」「マーケティング」「白の魅力と城の白壁修復」に関する色彩の実践的活用を取り上げることになりました。今回もさまざまな分野で活躍されている超一級の講師を迎え、色彩学の基礎と応用にも触れながら色彩に関連した最先端の事例を中心に実践的な色彩活用技法について講義します。なお、前2回の色彩講座との連続性を維持するために、5名の講師には再登場いただきます。

本講座は色彩における基礎力と実践力に加え、創発力を得て強靱な色彩活用力を会得いただけるよう構成しました。そのベースには、色彩学を正しく理解し、正しく使い、ワクワクした実践活用につなげて頂きたいとの思いがあり、副題を<考える, わかる, 使える“色彩学”>としました。

既に社会で活躍されている技術者、カラーコーディネーター、色彩教育普及関係者はもちろん、大学や研究所等で色彩学を専門とする方にも受講をお勧めします。奮ってご参加ください。なお、修了条件を満たされた方には、日本色彩学会関西支部より修了証書を授与します。

期 間：2019年9月～2020年2月の土曜日または日曜日(終日)全5回

<9/28(大阪), 10/13(大阪), 11/9(姫路), 12/14(大阪), 2/22(大阪)>

時 間：大阪会場 1時限目(90分 11:00～12:30) 昼食・休憩(60分 12:30～13:30)

2時限目(90分 13:30～15:00) 3時限目(90分 15:10～16:40)

姫路会場 1時限目(75分 11:00～12:15) 昼食交流会(60分 12:30～14:30)

2時限目(75分 14:45～15:00) 3時限目(姫路城見学会 15:00～17:00)

会 場：大阪会場：大阪電気通信大学駅前キャンパス(京阪本線寝屋川市駅 徒歩3分)

<https://www.osakac.ac.jp/institution/campus/access/>

姫路会場：姫路護国神社 護国会館(JR姫路駅から 徒歩12分)

<http://www.himeji-gokoku.jp/keidai.html>

定 員：40名(定員になりしだい締切ります。学生枠は10名)

受講料：会員 50,000円 非会員 70,000円 学生30,000円(学生・院生で40歳以下)

*上記費用には、レジュメ、姫路会場の昼食交流会費、姫路城入城料、消費税が含まれています。

*協賛団体の会員も会員価格になります。

*万一欠席された場合、当該のレジュメは後日お受け取りいただけます。

*1日受講の募集は、実習や資料配布の都合もあり、現在のところ未定です。

修了証書：授与します。

申 込：メールの件名は「実践色彩講座2019受講希望」とし、氏名・会員種別(正・賛助・学生・非会員、協賛団体会員の場合は団体名も)・連絡先を明記し下記までお申込みください。

日本色彩学会関西支部 tsujino@gold.ocn.ne.jp 実行委員：辻埜まで

受講料：受講を受理した受講者には電子請求書をメールでお送りします。請求書が届きしだい<日本色彩学会 関西支部口座>にお振り込みください。振込先の詳細は請求書に記載します。なお、会場の受付でお支払いの場合はその旨お知らせください。

<協 賛> 順不同敬称略、依頼中を含む

一般社団法人色材協会 / 一般社団法人照明学会 / 一般社団法人日本家政学会 / 一般社団法人日本塗料工業会 / 一般社団法人日本人間工学会 / 特定非営利活動法人カラーユニバーサルデザイン機構 / 特定非営利活動法人ヒューマンインタフェース学会 / 日本感性工学会 / 日本視覚学会 / 日本化粧品技術者会 / 特定非営利活動法人人間中心設計推進機構 / サービス学会

講義概要

1. 化粧心理学と照明技法 9月28日(土) 11:00~16:40 大阪会場

① 色彩家のための化粧心理学 山田雅子氏(埼玉女子短期大学)

キーワード: ジェンダー, 美しさ, 肌色観 概要: 化粧において, 肌は非常に強い存在感を持つ。物理的な面積のみならず, 人物の印象に及ぼす心理的影響も大きく, 更には美しさの評価にも深く関与します。本講座では, ジェンダー(社会的性差)と美しさを軸に, 心理学的見地より, 日本人の肌の色に対する認識の特徴について解説します。また, 各種実験・調査から得られた肌をめぐる価値観を紹介し, 受講者の皆さまと共に, 私たちを取り巻く現代の特徴を見渡してみたいと考えます。

② 心理学的観点から見る化粧行為の意味 木戸彩恵氏(関西大学)

キーワード: 化粧行為, 心理学, 意味 概要: 化粧(スキンケア/メイクアップ)は多くの人が日常で実践している行為です。スキンケアを含むと, 実態としては男女ともに化粧品を使用しています。しかし, 一般的に男性は自分が化粧をしているとは認識していないものです。化粧行為の意味づけにジェンダーによる文化差があることを, インタビューデータをもとに示すとともに, 心理学的な研究知見をもとに日常で実践される化粧行為の意味について説明します。

③ 肌を美しく演色する照明と化粧照明技法 岩井 彌氏(パナソニック株式会社) 講演+実習

キーワード: LED, 演色, 照明技法 概要: 今では, 照明器具の出荷台数の95%を占める光源となっているLED。そのLEDは分光分布の制御が比較的容易であるという長所がある一方で, 発光面積の小ささゆえに眩しさを感じやすいという短所も持っている光源です。これらLEDの特徴を解説すると共に, LEDの特徴を活かした日本人の肌を美しく演出する光色と化粧に適した照明技法を, 実際にデモを通じて体感していただく予定です。

2. アクセシブルデザインでワクワク社会に 10月13日(日) 11:00~16:40 大阪会場

① UDの必須基礎知識としての知覚特性と情報処理機構 篠田博之氏(立命館大学)

キーワード: 知覚特性, 情報処理機構, 視覚形成 概要: ユニバーサルデザインを扱う上で必須の, 人の知覚特性と特徴的な情報処理について講義します。私たちは外界情報の「何」を必要とし, それを「どのよう」に獲得し, 活用するのか。そのツボを押さえないと, UDが単なるテクノロジーの押し付けや独りよがりのデザインに陥ります。講座では, 乳幼児や開眼手術後の先天盲の視覚形成過程, 不都合を気付かせない情報処理機構, 言語を用いない乳幼児の知覚研究手法についても解説します。

② 色覚異常を持つ人の日常生活における不利益 河本健一郎氏(川崎医療福祉大学)

キーワード: 色覚, QOL, カラー UD 概要: 色覚異常を持つ人の場合, 正常者とは異なる色の識別を行うことがあり, このことが日常生活における色の利用への不利益につながることもあります。ここでは, それら不利益の例を紹介するとともに, 不利益を軽減するカラー UDの利用について考えたいと思います。その中では色覚特性との関連, 色覚検査の有効性についても触れる予定です。

③ 色を楽しむアクセシブルデザイン - 触って分かる衣服の色タグ “いろポチ” -

佐川 賢氏(産業技術総合研究所) 講演+実演

キーワード: 全盲視覚障害者, 色相環, 触覚タグ 概要: 色を楽しむには, 見なくてはいけないだろうか。全盲の視覚障害者でも, 色に興味を持ち, 色を楽しんでいる。特に女性は毎朝どの色の服をコーディネートするか, ワクワクする悩みを有する。そこで開発されたのが“いろポチ”。基本色10色の色相環を触覚ドットで置き換え, そのうちの一つを繰り抜いて色を知らせる。色と色の関係性が分かるので配色ができる。ここが最大の利点。その開発の経緯と実際の“いろポチ”タグを紹介します。

3. 姫路城の白壁から学ぶ修復技法と白の魅力 11月9日(土) 11:00~17:00 姫路会場

① 白色度 - 白はカラフル - 片山一郎氏(近畿大学)

キーワード: 知覚白色度, 色みと白さの関係, 明るさ感 概要: 白紙や白布などは, 知覚的な白さを向上させるために, 大抵の場合, 蛍光増白剤が添加されています。しかし, 蛍光増白剤を添加すると, 無彩色を通り越して測色的には青みを帯びます。色みが付くと白さが低下するはずですが, 実際には増白効果が得られます。本講義では, 色彩の教科書には詳しく載っていない白色の不思議な世界について解説します。

<昼食交流会> 部屋の窓からお城と堀がのぞめます。

会場の都合でお弁当ですが, 気のあう仲間と, また講師や実行委員の先生方をまじえ, ワクワク感のあるひとときを。

② 最新技術と古来技術とのコラボレーション 野崎信雄氏(元鹿島建設株式会社姫路城大天守保存修理工事事務所総合所長)

キーワード: 制約の中での創意工夫, 見学兼用の作業施設, 伝統技術の継承, 耐久性・耐候性及び耐震性の向上
概要: 国宝で世界遺産の姫路城。建造物と地形に極めて複雑な条件がありました。文化財保護のため地下には触ってはならないし, 消防法による火気の使用は禁止。また, 世界遺産におけるユネスコのヴェニス憲章により「形状・材料・工法(仕様)・位置の不変」の原則もありました。これら多くの制約に対応し, 更に伝統技術の継承と, 従来より少しでも長く現状維持ができるようになど, 数々の創意工夫を重ねた工事内容を紹介します。

③ 姫路城(白鷺城)見学会

城内の護国神社から, 世界文化遺産・国宝の姫路城に移動します。白漆喰総塗籠造りの「愛称」白鷺城をじっくりご見学ください。なお, 城内にエレベーター等の設備はありません。動きやすい服装でご参加ください。

4. 自然色を学ぶ ～育てる・味わう・測る～ 12月14日(土) 11:00～16:40 大阪会場

①実践色彩テーブルアートーおいしさをもたらす色彩とは？ー 富田圭子氏(近畿大学) 講演+実演

キーワード:おいしさ, 食欲, 食文化 概要:食卓の上には, 料理の他にも様々な色のテーブルウェアが置かれている。それらの色や配色によって, 我々の感性が刺激され, 気分を高揚・鎮静させるなどの変化がもたらされます。しかし, もともと食べ物は植物や動物であり, 自然の産物です。それらを調理・加工し, 相応しい色のテーブルウェアや照明と組み合わせることで, 自然界にはない「おいしさ」を演出することができます。本講座では, おいしさと色の関係や, 食文化的側面から見た色の使い方などについても触れ, 食事をおいしく魅せるためのテーブルアートの実際をご紹介します。

②花の色の決まり方 細川宗孝氏(近畿大学)

キーワード:花色, 花の構造, 生活 概要:花の色(見え方)はどのように多様化してきたのだろう。人類は, 花の大きさや色素の種類だけでは満足できず, 細胞の構造や細胞の中の粒子が花色に及ぼす効果にまで着目し, 花を改良してきました。遺伝子レベルでの花色の発現メカニズムが明らかにされ, 新しい花が次々と生み出されるようになりました。「変わりものを選び出す」ことから「変わりものを作る」時代になったと言えます。花の色の発現機構についてお話しし, 人と花との関わりについても触れる予定です。

③測色の理論と実践 酒井英樹氏(大阪市立大学)

キーワード:照明・受光条件, SCE/SCI, 工業規格 概要:物体の色を測定するには, 工業規格で定められた照明・受光条件を満たすことが望ましく, 平らな試料面であれば, 規格に準拠した市販の接触式色彩計を用いればよい。しかし, 食品や花など, 複雑な形状の試料をそのままの形で測定するには, 非接触式の色彩輝度計(簡易にはデジタルカメラ)を使う必要があります。その場合, 照明を別途用意しなければならず, 一般的に測定精度を担保することが難しい。本講座では, 照明・受光条件を満たすことの重要性と, 複雑形状物の測色法を解説します。

5. より戦略的なカラーマーケティング 2月22日(土) 11:00～16:40 大阪会場

①ファッションデザイン画における色彩の推移と傾向 森下あおい氏(滋賀県立大学)

キーワード:ファッションデザイン画, 定量的分析, 服のかたちと色彩 概要:独特のデフォルメされた形や大胆な配色が表現されている, 日本を代表するファッションデザインコンテスト(装苑賞)のデザイン画を資料として, 1970年代～現代までの色彩の推移や特性を紹介し, またデザイナーのとらえる色彩の客観性や, 服のかたちが導く色彩について解説します。

②きもの色彩 現代の着物マーケットにおける色彩とデザイン傾向

能口祥子氏(きものカラーコーディネーター協会) 講演+実演

キーワード:きもの, 色彩とデザイン, 日本の色 概要:主に明治～現代のきもの色やデザインにおける美意識の変遷と, 現在の着物マーケットについて解説します。日本の伝統工芸や職人がおりなす美しい色や技も紹介します。

③色彩分析とカラーマーケティングの実際(仮) 竹下友美氏(DICカラーデザイン株式会社)

キーワード:色彩分析, カラーイメージ調査, カラーマーケティング 概要:商品企画やデザインに色彩を効果的に活用するためのカラーマーケティングの視点をはじめ, 色彩の調査・分析手法についてご紹介します。商品パッケージの市場調査, 消費者の嗜好や感性と深く関わるカラーイメージ調査等, 具体的な調査事例を基に解説します。

<実行委員>

委員長: 森本一成

委員: 北口紗織, 篠田博之, 高田瑠美子, 辻埜孝之, 土居元紀, 富田圭子, 西 省吾, 能口祥子, 松田博子, 山田正之, 山下明美, 山本暁美



大阪会場: 大阪電気通信大学駅前キャンパス



姫路会場: 姫路護国神社 護国会館

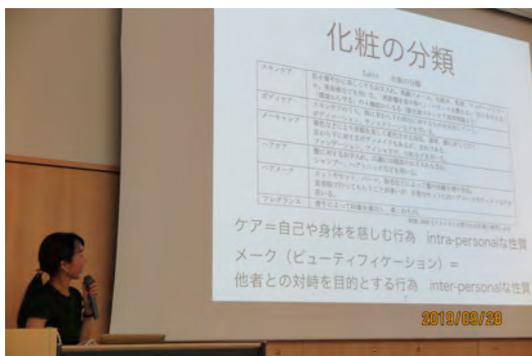
_____ c _____



第1回 化粧心理学と照明技法

令和元年9月28日に実践色彩講座2019第1回講座を開講しました。嬉しいことに、受講者から「今まで体験したことのない色彩講座で面白かった」とのメッセージを頂きました。
 篠田博之（立命館大学 教授）

①木戸彩恵氏（関西大学 准教授）心理学的観点から見る化粧行為の意味



日常多くが実践する化粧行為の意味づけを、文化心理学や社会心理学の最新の知見をもとに講義された。とくにジェンダーや文化による差がインタビュー研究データから明らかにされた。受講者自らの意識を見つめ直す時間もあり有意義であった。

②岩井 彌氏（パナソニック(株)）肌を美しく演色する照明と化粧照明技法



照明光源の主流になった LED 光源についての解説から始まり、LED の特色を生かした応用として、肌や化粧に効果的な照明光や照明技法について紹介された。実際の機材を用いたデモも盛りだくさんで、実体験を通して講義内容を理解した。

③山田雅子氏（埼玉女子短期大学 教授）色彩家のための化粧心理学



女性の美しさについての考察から始まり、日本人の肌色観について、女子大学生の調査結果から講義された。とくに自身に対する評価と理想との間の差がジェンダーによって異なることや、肌色観の構成要素について学んだ。受講者もワークに取り組むことで内容理解に役立てた。

- 2019 10/13 第2回「アクセシブルデザインでワクワク社会に」1日単位での受講を受付けています。
- 2019 11/9 第3回「姫路城の白壁から学ぶ修復技法と白の魅力」姫路城の修復を詳細に記録したビデオを昼食時間に流します。普段は決して見ることのできない大変貴重な資料です。ご期待ください。



関西支部 実践色彩講座 2019

考える
わかる
使える "色彩学"

<http://www.color-science.jp/branch/kansai/img/20190906.pdf>

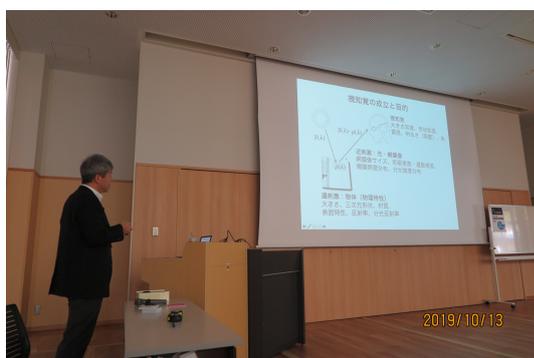




第2回 アクセシブルデザインでワクワク社会に

3連休の中日、巨大台風一過の令和元年10月13日に実践色彩講座2019第2回講座を開講しました。視覚障害者のための色彩学に接することができて、ワクワクが止まらない講座だったとの感想を頂きました。森本一成(京都工芸繊維大学 名誉教授)

①篠田博之氏(立命館大学 教授) UDの必須基礎知識としての知覚特性と情報処理機構



見たい視覚情報を人はどのように知覚するのか。事例と体験を通してその仕組みを理解できた。色知覚については周辺視での彩度低下の実験データが紹介された。いつものことながら、受講者の関心を途切れさせない絶妙のワクワク講演であった。

②河本 けい氏(川崎医療福祉大学 准教授) 色覚異常を持つ人の日常生活における不利益



色覚検査は色弁別特性を診断するだけで色知覚の検査ではないが、自らの色覚特性を知り、色覚異常に早く気づき適切なアドバイスを得ることで、日常生活の不便を軽減できることなどが紹介された。色覚検査と色知覚の関係性の研究の発展に期待が膨らむ講演であった。

③佐川 賢氏(産業技術総合研究所 名誉フェロー) 色を楽しむアクセシブルデザイン 触って分かる衣服の色タグ “いろポチ”



全盲視覚障害者が衣服の色を自分で識別できる触覚色彩タグの研究開発の詳細を紹介された。きっちりと論理立てられた評価実験に基づく検討を積み重ねて着実に開発を進めたプロセスは、研究開発者にとって非常に有益な内容であった。実際の色タグに触って体験することができ、ワクワクの止まらない講演であった。

■11/9 第3回「姫路城の白壁から学ぶ修復技法と白の魅力」平成だけでなく昭和の大修理の映像も見せていただけることになりました。またとない機会です。ご期待ください。

■12/14 第4回「自然色を学ぶ ～育てる・味わう・測る～」自然色の持つ深い表現に触れます。



2019/10/13



2019/10/13



2019/10/13



関西支部 実践色彩講座 2019

考える
わかる
使える "色彩学"



2019/10/13



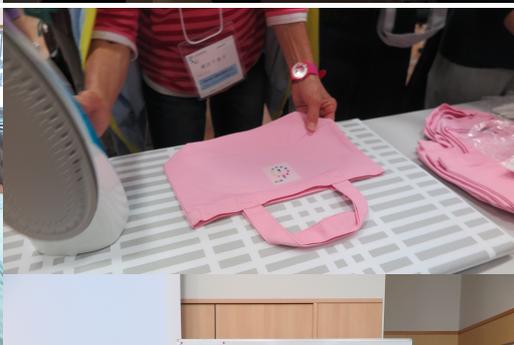
2019/10/13



2019/10/13



2019/10/13



2019/10/13



2019/10/13



第3回 姫路城の白壁から学ぶ修復技法と白の魅力

令和元年 11 月 9 日に、姫路城のお堀を直近にして天守閣が望める素晴らしい会場で実践色彩講座 2019 第3回講座を開講しました。白色度研究の現状と、姫路城の補修作業の詳細な解説による白壁の保存修復の最新技術を知ることができました。受講者からこの一連のユニークな講座でワクワクもし、今日は白色に対する考察への新鮮な刺激を頂いたとの感想がありました。また今回は (株)塗料報知新聞社様から取材を受けました。その情報は別の機会にお伝えしますが、インタビューを通して色彩についての様々な視点からの情報共有がまだまだ要求されていることを実感しました。

辻埜孝之 (辻埜プランニングオフィス)・森本一成 (京都工芸繊維大学名誉教授)

①片山一郎氏 (近畿大学 准教授) 白色度 —白はカラフル—



白色度式の標準化の経緯の紹介があり、現在の CIE 標準化白色度式は実験結果に合わないことが強調された。一方、異なる照明光下での近似白色物体の知覚白色度評価インデックスの算出式が提案された。会場からは 2019 年 CIE セッションで提案された新白色度式に関する質問や、白色に対する日本人の好みなど幅広い分野からの質問があり、白色度に関する議論が深まった。

②野崎信雄氏 (元 鹿島建設株式会社 姫路城大天守保存修理工事事務所 総合所長) 最新技術と古来技術とのコラボレーション

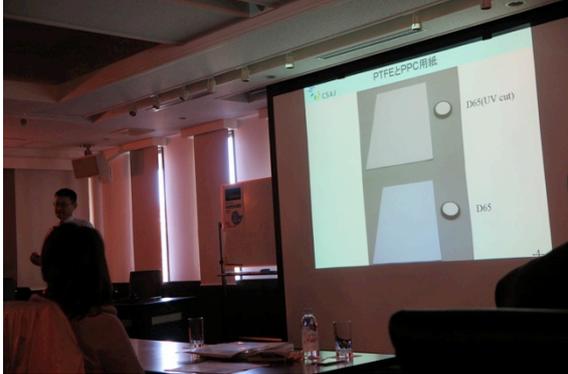


昼食時に世界遺産姫路城の昭和の大修理のビデオを放映した後、平成の大修理との違いを詳しく説明された。美しい大天守の保存修復に大変苦勞されたことが理解できた。漆喰に関しては、古文書を参考に 1 年半かけて試験塗りを行い、漆喰の状態変化を確認したことや、傷んでいる個所ごとに修理方法を変えたことなどが紹介された。受講者からは、漆喰の材料を平成時に変えたのか、漆喰の経年変化における測色データはあるのか、以前より屋根が白すぎて見えるのは何故かなど多くの質問があった。

■2019 12/14 第4回「自然色を学ぶ ～育てる・味わう・測る～」スポットでの受講を受け中。

■2020 2/22 第5回「より戦略的なカラーマーケティング」マーケティングのヒントを掴む。

<http://www.color-science.jp/branch/kansai/img/20190906.pdf>



関西支部
実践色彩講座



関西支部
実践色彩講座



関西支部
実践色彩講座
2019



野崎氏の案内で姫路城を見学しました。多くの制約の下で、可能な限り最善に近い手法を開発して構造物や漆喰の修復が行われた訳ですが、その具体的な個所を現場で説明頂き修理技術の素晴らしさをより正確に理解することができました。次の修理は40年後とのことです。



日本色彩学会関西支部

白の魅力で参加者の関心誘う

白色度研究や姫路城見学

日本色彩学会関西支部(森本一成支部長)は、3年目となる実践色彩講座2019「誰のための、何のための色彩学」と「もっとワクワク」のテーマで、全5回の第3回講座「姫路城の白壁から学べば修復技法と白の魅力」を11月9日に兵庫県姫路

市本町の護国会館で開き、近畿を中心に九州から東海の会員や学生、一般など40人余りが参加した。

今回の講座では、「白色度」白はカラフルを片山一郎氏(近畿大学生物理工学部准教授)が、「最新技術と古来技術と

の「コラボレーション」を野崎信雄氏(元鹿島建設、姫路城大天守保存修理工事事務所総合所長)が講演し、白の研究の現状や姫路城の補修作業の詳細な解説があり、多岐にわたる参加者の関心を呼んだ。

昼食時に「姫路城の昭和の大修理」のビデオ放映があり、午後の講義の後、野崎氏の案内により姫路城を見学した。白壁の保存修復の最新技術などを知らぬことにより、姫路城修理技術についての理解を深めることができた。

同支部事務局を務める辻椋孝之氏は「昨年まで姫路城見学を選んだのは本部主催の6回コースで、スタジオリから新のプロジェクトやマッピングなど、基礎を学ぶと同時に最新の技術に触れる機会を提供した。今年度は関西支部がこれを引き継ぎ、実施している。

は、新幹線からみる姫路城の白さが落ち着いてきた印象を持ち、当学会には白色の研究もあることから、京都工芸繊維大学のネットワークを活かし、鹿島建設へと繋が

招待講座(関西支部総会併催)に参加できるなど、受講者アンケートによる学びたい「体験したい」テーマも加えた参加型の企画となっている」と話した。

なお、本講座は毎年、年明けから企画を立てており、実行委員会で開催した15テーマのなかから5テーマを選んでいる。最終講座(第5回)は「より戦略的なカラーマーケティングマーケティングのヒントを掴む」をテーマに来年2月22日に開催を予定する。

また、同支部がホストとなり、色彩の研究者・デザイナー関係者が全国から集う日本色彩学会第51回全国大会(京都)が2019年6月27日・28日に開催される。新企画の情報もあり、期待が寄せられている。



参加者を前にあいさつする森本支部長



第4回 自然色を学ぶ ～育てる・味わう・測る～

令和元年12月14日に実践色彩講座2019第4回講座を開講しました。スポット受講者も多く、大盛況でした。「この講座を楽しみにしていました。とても興味深い内容で大満足です！」とのメッセージを頂きました。 富田圭子（近畿大学 准教授）

①富田圭子氏（近畿大学 准教授）

実践色彩テーブルアート –おいしさをもたらす色彩とは？–



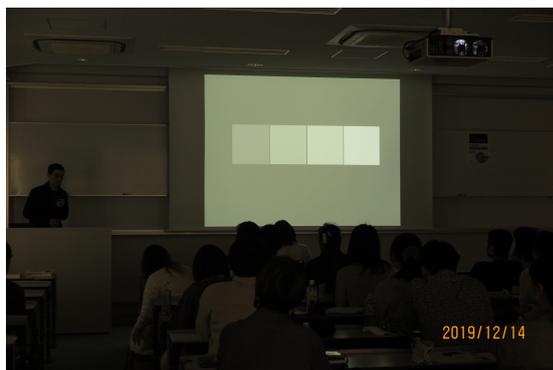
視覚の重要性を体感する五感実習、視覚的美味しさをもたらす調味料の役割、背景色の効果、季節の色の楽しみ方についての講演の後、アフリカをテーマにしたテーブルコーディネート(実物展示)の解説がありました。参考資料も提供されて非常に参考になったとお声を沢山頂きました。

②細川宗孝氏（近畿大学 教授）花の色の決まり方



植物色素の種類や新しい花色を生み出す育種のメカニズム等、美しい写真を交えた盛沢山の楽しい講座でした。特に、表皮下にできた空気層や澱粉層の存在が白色柄や光沢に関与しているなど、興味深い内容でした。講演後は質問が絶え間なく続くほど好評でした。

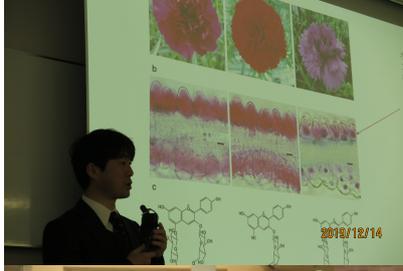
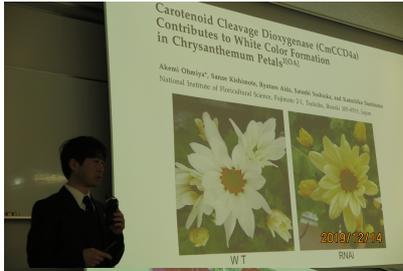
③酒井英樹氏（大阪市立大学 准教授）測色の理論と実践



自然物という立体的で複雑な質感をもつ対象物を、非接触で測色する新技術(酒井氏開発)が紹介されました。拡散光照明下に光トラップを設置することで、光沢や再帰反射の測定が可能となります。参加者はその技術を習得しようと、熱心に受講されていました。

■2020 2/22 第5回「より戦略的なカラーマーケティング」スポットでの受講を受付中です。

<http://www.color-science.jp/branch/kansai/img/20190906.pdf>



2019. 12. 14



関西支部 実践色彩講座 2019

考える
わかる
使える "色彩学"

会場
6階小ホール

大阪電気通信大学 駅前キャンパス



富田先生によるアフリカをテーマにした自然色テーブルコーディネートのご説明
受講者はデザインコンセプトを形にする手法を体感し、作品を写真に収めていた。(事務局)





<http://www.color-science.jp/branch/kansai/img/20190906.pdf>

第5回 より戦略的なカラーマーケティング

令和2年2月22日に実践色彩講座2019第5回講座を開講しました。各講義とも予定時間をオーバーして多くの質問があり、いつものように活発な議論がなされました。最後に、講座を3回以上受講された方に修了証書が授与されました。

山本暁美 (atelier MARIFU)

①森下あおい氏 (滋賀県立大学 教授)

ファッションデザイン画における色彩の推移と傾向



色彩講座では初めての分野である「ファッションデザイン画」について、各時代のファッション感覚が現れる〈形態〉と〈色彩〉、2つの視点からの分析法をご講義頂いた。デフォルマシオン(意匠的変形)されたモノクロのデザイン画から色彩を予測する研究には受講生の関心も高く、グレーの明度が統一されていないことや、色と形の関係性など、活発な質問があがった。また、深層学習を用いたファッション分野の最新の研究もご紹介頂いた。

②能口祥子氏 (きものカラーコーディネーター協会 代表理事)

きものと色彩 現代の着物マーケットにおける色彩とデザイン傾向



江戸時代から現代までの着物の種類と、模様と紋による格付けなどの講義の後、数十色以上の色無地反物や絵付けに使用する型紙など多彩な資料を実際に手に取って拝見した。変化する着物業界の流通形態や、伝統工芸が直面する後継者不足・材料の枯渇などの問題が着物の製作現場にも及んでいることを解説頂いた。

伝統美を纏った着物姿のモデルには歓声があり、専門的な染色技法などの質問が相次ぎ、興味が尽きない講座であった。

③竹下友美氏 (DIC カラーデザイン(株) カラープランナー)

色彩分析とカラーマーケティングの実際



カラーマーケティングの視点から、五感との結び付きが深い「色」のイメージを定量化する手法を解説頂き、機能性飲料と自動車という身近な事例から、キーワードを軸にした大規模なオンラインアンケートなども含めて、実際の調査の流れを詳細な資料と共にご紹介頂いた。

昨年の全国大会の企業展示での「質感(触感)からイメージする色」の体験で興味を持ち、今回の講座をお願いすることになったが、色彩関連の企業の最前線の活動や研究を知る貴重な機会となり受講生からも好評であった。



関西支部
実践
2019

関西支部
実践
2019

関西支部
実践色
2019

関西支部
実践色彩
2019

関西支部
実践色彩講座
2019

考える
わかる
使える

考える
わかる
使える "色彩学"



修了証書

あなたは日本色彩学会関西支部
主催 実践色彩講座2019「考える、
わかる、使える"色彩学"」において
所定の課程を修了されたのでこれを
を証します

令和2年2月22日

一般社団法人日本色彩学会
関西支部
関西支部長 森本一成
実行委員長

実行委員
上原麻由、高田真由、西 貴浩、藤井孝子、
藤田千子、高田正之、山手明晃、山本純美